

「共同募金改革推進モデル支会支援事業 事業報告書」(平成22年度分)

I. 概要

1 支会名	南丹市共同募金委員会
2 事業名	委員会立ち上げ事業

II. 事業概要

1 事業の目的

平成22年度に「南丹市共同募金委員会」が立ち上がり、今までの募金のシステムと変わりました。それに伴って、当会専用の封筒や集金袋を作成し、住民の方々により共同募金への理解をはたらきかけることを目的とする。

2 事業内容

実施した会議・委員会やイベント等の実施日・参加者・主な協議内容、作成物の内容や配布先等を記入してください(別紙可)。

9/15 南丹市共同募金委員会 設立委員会(委嘱状交付)
10/1 募金運動スタート 街頭で広報(8ヶ所)
10/6 審査委員会(審査委員会の役割とは)
12/6 審査委員会によるヒヤリング(公募分について)
<作成物>
・南丹市共同募金委員会 封筒(大・小)
・南丹市共同募金委員会 集金袋(領収書付き)14,000部
・全戸配布チラシ 14,000部

3 事業の成果

他地域への成果普及のため具体的にご記入ください。なお、当該項目について、別途冊子等にまとめている場合は、そちらを添付いただければ結構です。

(1) 事業の成果

市民に対してチラシ等で広報することにより、募金したものが自分達の生活をよりよくする為に使用されていることがわかって頂けた。歳末と一緒に集めることにより、区長さん等から好評であり、集金業務に対する抵抗が軽減された。

(2) 当初の予定・ねらいと成果の比較

今までは住民の中に「共同募金＝社協への寄付」といった誤ったイメージがあったので、今年度を機会に「共同募金」のイメージを変えたいというねらいがあった。集金袋を作り、集め方を説明する中などで、若干ではあるがねらいは達成したと考える。

(3) 事業の進め方についての振り返り・評価

年度途中からのスタートだったので、行程が忙しくせわしなかったのが反省点である。歳末助けあいと一緒に集金したこともあり、募金額がかなり減ってしまった。

(4) モデル事業で得られたノウハウ等

特にありません。

4 平成 23 年度以降の予定

2 か年の事業が終了した際は、助成事業の成果を今後どのように発展・普及させていくのかの展開方策を具体的にご記入ください。1 か年目の事業が終了した場合は、2 か年目の事業計画をご記入ください。

南丹市共同募金委員会の中で、新しい広報のあり方や住民へのアピールについて十分に検討する。

平成22年度南丹市共同募金委員会事業報告

住民相互の助け合い、支え合いの精神で始まった共同募金運動は、わが国の伝統として社会に根づき、自治会をはじめ、多くのボランティアに支えられ、60年余りの歴史を積み重ねてきました。

このような環境のもと、地域における市民参加の地域福祉活動を財政面で支援する共同募金運動への期待が益々高まっており、少子化による人口減少社会が進行するなか、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすために、広く住民参加のもと、高齢者・障害者・子どもたちとともに生きる福祉のコミュニティづくりを応援するといった役割へと方向転換してまいりました。

しかし、社会・経済状況の変化や共同募金の仕組み等の問題から、近年、募金実績が減少しており、共同募金運動の透明性や市民の参加意識を高めることが強く求められています。

そこで、南丹市においては、合併以降、社会福祉協議会を中心に取り組んでいましたが、共同募金運動の透明性と情報公開、寄付者の意思を尊重した組織づくりを目指して、昨年9月、広く地域住民の皆さんに参画いただき「南丹市共同募金委員会」を設立しました。

本年度も「じぶんの町を良くするしくみ」をメインテーマとして、10月1日から全国一斉に赤い羽根共同募金運動が展開され、南丹市では、これまで区長会の中で強く改善が求められていました。寄付金の募集時期の集約について、本年度新たな方法として、毎年10月と12月に各区長にお願いしていた「一般募金」と「歳末たすけあい募金」の集金を、今年度から一括で集金いただく形に変更しました。結果として、募金額は目標額を下回ることとなりましたが、お世話になります、区長等の負担の軽減を図ることができ、区長の好評を得られ、次年度への提起を含め、一定の方向付けをすることができた。

また、市民に対してはチラシ等で広報することによって、募金が自分たちの地域をより良くするために使っていることをわかっていただくよう努めた。さらに、当会専用の封筒や集金袋を作成し、住民の方々に、共同募金委員会の周知を図った。

本年度は『障がい者福祉の充実』をテーマとして助成を行うこととし、障がい者等の居場所づくりなどに取り組んでいるグループ、ボランティアなどが、この助成金を受けることにより活動が活発化するよう、申請を受け付け、審査委員会の審査により助成金を交付させていただいた。

以下、本年度事業の実施状況について下記のとおり報告致します。

1. 助成計画の策定と目標額の設定

共同募金の助成計画は、社会福祉施設・団体等からの申請を受け、地域福祉・在宅福祉活動費や社会福祉施設等の整備費、ボランティアグループ等への公募助成枠の設定など、審査委員会の審査を経て策定した。また、助成計画をもとに次のとおり目標額を設定した。

(1)一般募金目標額	5,767,000円	(6,129,000円)
(2)歳末たすけあい募金目標額	5,851,000円	(5,347,000円)
(3)目標総額	11,618,000円	(11,476,000円)

※()内金額は平成21年度目標額

2. 募金運動の推進

(1)一般募金

1. 「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに、10月1日から12月31日までの3ヵ月間にわたり運動を実施した。戸別募金について、昨年度までは、一般募金700円、歳末たすけあい募金500円を目安として、2回に分けて各区長に依頼していたが、今年度は区長等の負担軽減を考慮して、一括集金で1,000円を目安として協力依頼をした。そのため、募金実績額は前年度を1,215,947円下回る結果となったが、一括集金については好評を得られた。

実績総額	4,467,073円	(5,683,020円)
------	------------	--------------

※()内金額は平成21年度実績額

2. 実績額に占める募金種別の割合は次の通りとなった。

募金種別	平成22年度	
	実績額(円)	
戸別募金	4,080,315円	
街頭募金	67,558円	
法人募金	10,000円	
学校募金	0円	
職域募金	309,000円	
イベント募金	0円	
その他	200円	
合計	4,467,073円	

(2) 歳末たすけあい募金

「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに、12月1日から12月31日までの1ヶ月間、歳末たすけあい運動を実施した。

実績総額	4,036,102円	(4,898,072円)
------	------------	--------------

※()内金額は平成21年度実績額

3. 助成等の実施

(1) 一般募金

前年度の一般募金の実績額 5,683,020 円に基づき、4,151,512 円の配分金を府京募より受けた。今年度は「障がい者福祉の充実」をテーマとして、その配分金を予算化し、地域における障がい者と健全者との協働や居場所づくりなどに取り組んでいるグループ・ボランティア等への助成したほか、昨年度に引き続き「子どもの健全育成」を目的に福祉活動を行っている子ども会や子どもを中心とした団体・組織へも助成を行った。

助成の内容は、下記のとおりである。

助成内容	件数	金額(円)
団体助成事業		860,000
介護者家族の会への活動助成事業	4 町	80,000
八木町難聴者の会活動助成事業		20,000
南丹市身体障害者福祉会への助成事業		160,000
南丹市老人クラブ連合会活動助成事業		300,000
南丹市母子寡婦福祉会への活動助成事業		200,000
南丹市精神障害者家族の会への活動助成		100,000
ボランティアグループ活動助成事業	79 グループ	797,500
映画会「精神」の上映	2 カ所	265,500
ボランティアへの保険一部助成	1477 人	295,400
障がい者との交流事業		198,294
ふれあい(小地域)ネットワーク事業の推進		240,000
合計		2,656,694

下記の事業については、公募・申請の後、審査委員の審査により決定し、助成先は次のとおりである。

助成内容	件数	金額(円)
障がい者を交えた活動団体・グループ・サロン等への助成	4団体	356,285
特別助成(障がい福祉関係)	1団体	200,000
子ども会活動への助成	1団体	30,000
合計		586,285

※4,151,512円の配分を受けたが、助成を行った金額は3,242,979円であったため、剰余金908,533円は府京募へ一旦返還した。ただし、返還された剰余金は翌年度に全額再配分を受けることが出来る。

(2) 歳末たすけあい募金

1. 地域歳末たすけあい運動

地域歳末たすけあい募金実績額 4,036,102円のうち 3,495,243円を計画に基づいて助成した。特に、障がい者施設の入所者や地元施設への通所者、在宅で障がいを持っておられる方、介護を必要とされている方、また民生児童委員が必要と認めた方に対し、見舞金の助成を行った。合わせて、ひとり暮らし高齢者で、民生児童委員が必要と認める方を対象として、今年度から「ふれあい弁当」を「クリスマス弁当」に名前を変更し(園部町地域は変更なし)、配布した。

内容	件数	金額(円)
個人への見舞金助成 (民生委員の意見あり)	63人	315,000
住民への見舞金助成 (在宅の要介護度5、身体障害者手帳1級、療育手帳A、精神障害者手帳1級)	88人	440,000
障がい児・者施設通所者見舞事業	177人	885,000
障がい児・者施設への見舞事業	9施設	360,000
年末年始サロン参加者への助成	1,080人	540,000
年末年始地域交流事業への助成	3団体	73,000
クリスマス弁当の配布	421人	882,243
合計		3,495,243

歳末たすけあい運動による募金は、歳末特別事業配分を除き、当該募金年度内に配分される。

※ 募金額と助成額との差額については、剰余金として一旦府京募へ返還し、翌年度再配分を受けることとする。

4. 広報活動の実施

(1) 共同募金運動街頭啓発

全国一斉に10月1日から12月31日までの3ヶ月間、共同募金運動が展開されるにあたり、市民の方々に、より広く知っていただき、自主的な寄付を増やしていくため、以下のとおり、街頭啓発を実施し、募金の呼びかけを行った。

実施日：平成22年10月1日（金）

時間：7:15～8:00

11:00～12:00

会場：JR園部駅、マツモト新園部店、JR八木駅、マツモト八木店、JR日吉駅、
JA日吉、和泉交差点付近、美山ふれあい広場 以上8ヶ所

配布物：パンフレット、ドラえもんバッジ、赤い羽根等

出務者：運営委員等 18人、社協職員 13人、行政 10人

(2) 募金箱の設置

金融機関、コンビニ、スーパー等 26ヶ所

(園部:6ヶ所、八木:6ヶ所、日吉:7ヶ所、美山:7ヶ所)

(3) お知らせなんたんへの掲載

- ・南丹市共同募金委員会が発足し、一般募金と歳末たすけあい募金を一括して集金する旨の協力依頼の内容で掲載。

掲載日:平成22年10月8日発行

(4) 南丹市CATV(なんたんテレビ)の放映

- ・共同募金運動テレビスポットの放映(府京募から提供のDVCプロ2本) 10月1日～
- ・南丹市共同募金委員会設立の趣旨と、一般募金と歳末たすけあい募金を一括した取り組みに変更した点の説明及び協力依頼を市長メッセージとして広く呼びかける内容で、期間中にテレビ放送を実施。
- ・歳末たすけあい募金の助成事業の広報と申請の呼びかけ 11月中旬～放映

「共同募金改革推進モデル支会支援事業 事業報告書」(平成23年度分)

I. 概要

1 支会名	南丹市共同募金委員会
2 事業名	募金運動広報・啓発活動推進事業

II. 事業概要

1 事業の目的

本事業は、住民の方々への募金運動に関する情報提供、広報・啓発活動の強化により、南丹市共同募金委員会の周知を図るとともに、募金活動への理解と活性化を促進することを目的とする。

2 事業内容

実施した会議・委員会やイベント等の実施日・参加者・主な協議内容、作成物の内容や配布先等を記入してください(別紙可)。

H23.9.9 南丹市共同募金運営委員会

区長会、民生委員、福祉団体など20名で構成。

共同募金推進計画、戸別募金、街頭啓発、募金箱の設置、広報等について協議、承認を得る。

H23.9.22 募金運動協力依頼(チラシ等配布)

依頼文・広報チラシを市内各区長及び全戸に配布し、「赤い羽根共同募金」と「歳末たすけあい募金」の一括依頼、募金の使い道等について趣旨説明し、募金運動への協力を呼びかける。

また、南丹市および南丹市社協の広報誌にて募金運動に関する記事を掲載する。

H23.10.1～ 南丹市CATVによる募金運動啓発活動の実施

南丹市共同募金委員会会長である南丹市長から「赤い羽根共同募金」と「歳末たすけあい募金」の一括依頼、募金の使い道等について趣旨説明し、協力を呼びかける。

H23.10.3 街頭啓発実施

南丹市共同募金委員会運営委員、社協理事・職員、市役所職員計50名が参加。市内8箇所にてポケットティッシュとリーフレットを配布し募金運動について呼びかけ、朝と昼に実施時間帯を分けて啓発活動を行う。

H23.10.3～12月末 募金箱の設置

運営委員・社協職員・市役所職員が南丹市内に募金箱の設置依頼をし、35ヶ所に設置する。

H23.10 中旬～ 法人募金の依頼

運営委員・社協職員・市役所職員が南丹市内の法人(企業)38社に募金依頼の企業回りをし、14社から募金協力を得る。

<作成物>

・ポケットティッシュ	2,000部
・募金運動協力依頼・広報チラシ	全戸配布(13,000部)
・募金集金袋	全戸配布(13,000部)
・南丹市共同募金委員会封筒	5,000部

3 事業の成果

他地域への成果普及のため具体的にご記入ください。なお、当該項目について、別途冊子等にまとめている場合は、そちらを添付いただければ結構です。

(1) 事業の成果

・募金運動に関わる映像のケーブルテレビでの長期放映や、委員を動員しての街頭啓発の実施等により、住民の方々に募金の趣旨や使い道、また南丹市共同募金委員会の存在について知ってもらう機会をより多く提供できた。また、広報・啓発用チラシを全戸配布するだけでなく、街頭啓発の際にポケットティッシュと一緒に人の手で渡すことで、より多くの人に手に取ってもらえることが出来た。

・今年度初めての取り組みとなる法人募金では、職員だけでなく地域に顔馴染みのある委員と一緒に直接訪問して依頼することで、募金運動への理解・協力を得ることができた。

・以上のような広報・啓発活動への積極的な取り組みにより、募金総額の増加には至らなかったものの、戸別募金以外での募金額の増加を達成できたことから、南丹市共同募金委員会の周知、募金運動への理解促進に一定の成果を上げられたと考えられる。

(2) 当初の予定・ねらいと成果の比較

・ケーブルテレビやチラシ配布など、今までの媒体手段の活用によって広報・啓発活動の強化に取り組んだが、既存のものを活用するだけでは限界があるため、広報のための新たな手法の発案が必要であると考えられる。

・法人募金では、依頼文の発送と直接訪問をして募金協力を呼びかけたが、委員会の存在がまだまだ周知されていないこともあり、募金目標額を下回る結果となった。法人募金の定着までには時間がかかると考えられるので、長期的な計画を立てて実施していく必要があると考えられる。

(3) 事業の進め方についての振り返り・評価

・運営委員会では、委員からもっと活発に意見を出してもらえよう委員会形態を検討する必要がある。

・より多くの委員に広報・啓発活動に出席してもらえようように、年度当初に具体的な年間計画を示し、事前に日程調整をしておくことが必要である。

・職員・委員自身が募金についての知識を深め、募金運動を推進していく必要がある。

(4) モデル事業で得られたノウハウ等

--

4 平成 24 年度以降の予定

2 か年の事業が終了した際は、助成事業の成果を今後どのように発展・普及させていくのかの展開方策を具体的にご記入ください。

- ・ 広報手段を検討し直し、南丹市共同募金員会の周知の徹底と募金の使い道について透明性を図ることにより、募金活動への住民の理解・協力が得られるように取り組んでいく。
- ・ 法人募金の計画的、継続的な実施を進める。
- ・ 研修会や会議等に積極的に参加し、職員、委員の知識の向上に努める。